令和８年度「医療従事者向け権利擁護研修会」アンケート集計

R8.9.15

Ｑ１　御自身について御回答ください。（該当項目に☑を記入してください。）

- ☐医師　１人
- ☐看護師　４人
- ☐訪問看護師　２人
- ☐ソーシャルワーカー　５人
- ☐行政職
- ☐地域包括支援センター　８人
- ☐その他　２人
  （地域包括支援センター本通りインターンシップ生（県立大）、実習生）
- ☐未記入　１人

Ｑ２　普段の業務の中で権利擁護が必要な方と接する機会はありますか。また、その内容はどのようなものですか？

☐たくさんある　９人　　☐たまにある　10人　　☐ほとんどない　３人　　☐未記入　１人

〈たくさんある〉

・認知症で独居か身寄りのない方々

・救急外来で夜間に対応することがある。実際病院にかかっておらず、ファーストコンタクトだったりするので適切なケアが受けられていないと感じる場面や家族も困っての受診と思うので高齢者をめぐる権利擁護が不充分と思っている。

・虐待事例、退院支援で経済的虐待でどこも探せないことで困る。

・意思決定が本人のみでは難しいと判断されるようなケース

・今回の研修のような虐待疑いのケース

・金銭的（経済的）な理由で関わるケースが多い、親の年金を使う

・世帯全体で生活に困窮しているケース

・身寄りなし、経済的にきびしい、借金問題、成年後見・保証人関係 etc.

・虐待ケース、生活困窮、家族と疎遠、身寄りなしのケース

・認知症の方

〈たまにある〉

・独居の 90 代の女性で息子さんは別居、認知や DM があり、不衛生の状況が続いている。サービスを入れようとしても本人の拒否

・経済的理由でサービスを入れられない

・親の通帳を管理している息子さん、親に通帳を見せないという相談

・本人がサービス利用拒否あり、家族も困っているケース

・身体的虐待、ネグレクト、経済的虐待など
・虐待の疑いも含めて相談がケアマネや病院等からあります。
・認知症の方の意思決定をどうするか、虐待（主にネグレクト）の対応をすることがある。
・経済的虐待かな...と思ってもキーパーソンがその人しかいないと（入院）、どう対応したらと戸惑うこともある...本人もその人を頼りたいと気持ちがあるとますます。
・本人の病状が安定してもなかなか退院にスイッチできない。病院でやっている対応と同じく対応してくれる施設がないと言われる。
・独居老人、経済問題等 MSW へ依頼している
・身体的虐待、あざが常にあった、息子からの暴力があった、包括・市へ通報し施設入所となった。
・経済的虐待、息子さんが親の年金を使ってしまい、介護サービス費・光熱費が払えなくなった。

Q３　本日の研修会は参考になりましたか？

□とても参考になった　16 人　　□参考になった　７人

□あまり参考にならなかった　０人　　□参考にならなかった　０人

その理由を教えてください

〈とても参考になった〉
・虐待の可能性を考慮して患者家族と話す必要があると理解しました
・関連されるスタッフの現場の声が聞くことができたので良かったです。顕在化していないものを可視化するためのノウハウも聞けました。虐待していると感じることが多いと言うとそうではないとする意見もあり、悩んでいるのは自分だけではないと思いました。
・多職種の方の視点を伺えた
・医療側からの視点（意見）、気づきが多くありました。
・病院はケガ・疾患に注目して虐待に気がつきにくいという意見にはっとしました。医療職の中に身を置く福祉職として虐待の疑いがあるケースなどは出来る限り院内へ共有、外部に相談することを心掛けたいと思いました。
・授業では学ばない実践的な知識を学ぶことができました。医療・看護・介護で、これ程視点が変わるのかと驚きました。
・医療・介護それぞれの視点からの意見を聞くことが出来て参考になった。
・虐待サイン、チェックシートの活用を知れたこと、疑いケースでも通報可能なことを確認し権利擁護を守っていく必要性を認識できた。
・医療側の視点が勉強になりました。疾患としてみる、うたがわしいケースは救急で来たり夜間の場合も多い、そこから発見される。
・色々な病院や職種の方の意見を聞けてよかったです。
・いろんな方の見方が聞けて良かったです。
・虐待はあると思うが日頃より視点が疾患になってしまうため、虐待は疑わない。今回他職種とグループワークし、職種により目線が違うことがわかり楽しく研修に望めた。
・色々なケースや意見があり参考になりました。

〈参考になった〉

・包括と医療機関にズレがあることがわかった。1人でかかえこまない！が大事ということ。

・医療現場での考え方や対応を知ることが出来た。

・福祉サイドと医療側での視点の違いと医療機関の虐待対応のシステムの活用等勉強になった。

・普段からどの様な視点で関わるか、虐待と一言で片付けず高齢者の権利という視点で物事を見た場合、擁護者のみならず、支援者の側も支援という名の元に不利益を与えていないか、という点も自覚する必要があると思った。

・医療側の視点や役割分担、病院ごとの対応方法などを知る機会になり勉強になりました。

Q4　研修会の感想や御意見、今後の研修で希望することなどをお聞かせください。

・虐待例に対する具体的方策について教えて欲しい

・グループワークについてQuestionが多い。ゴールまで行くことができない内容だと思った。

・病院の方の視点、福祉側の視点が異なることがわかり、今後の連携に活かしたい。

・どのように声をかけるか？などロールプレイのようなものは実践にも活きるものだと感じました。立場によって違いもあり、様々考えや発想を聞けて良かったです。

・貴重な研修会の機会をいただき、ありがとうございます。

・少しグループワークの時間が短く感じました。皆さんの意見をもう少し聞きたいと思いました。

・グループワークの時間がもう少し長いと意見をまとめることが出来ると思いました。司会進行、ファシリテーションを実際に観察することができ、非常に学びになりました。ありがとうございました。

・虐待のケースはあまり関わったことがなかったので、虐待にも多くの種類があることが学びになりましたし、今後の患者さんとの関わりに活かしていける内容だったので参加してよかったです。

・精神科疾患をかかえている方の対応、DHの状況についての研修があればと思います。